

1380

造形民俗学

2単位（通信授業2単位）

亀井好恵講師

授業の概要と目標

ここでは、民具とよばれる道具類を対象として日本、日本人の築きあげてきた生活文化、生活意識のありようを考える。民具は比較的身近にある材料を素材として、伝統的な技法で作られ、日常生活に欠くことのできない必須のものとして使い続けられてきたものである。特別なモノではない。存在するのが当たり前として研究や観賞の対象として取り上げられることもなかったものである。しかし、それらの一つ一つを取り上げて、制作技術、使用方法、暮らしの中での役割・機能等を仔細に観察する時、そのモノに込められた作る人、使う人の心情をも読み取ることができる筈である。それこそが造形やデザインの原点ともなるものであろう。

課題の概要

○通信授業課題1

「伝統的生活用具の機能と造形」

伝統的だと考えられる生活用具（民具）の一つを取り上げて、そのものの使われ方、生活の中での役割、機能をそのものに即して具体的に調査・研究し、その形の持つ意味を考察すること。本文2000～3000字以内にまとめ、他に形態、大きさのわかる計測図を何点かつけること。ものによっては使い方も図示すること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

○通信授業課題2

「新しい生活用具の導入と生活の変化」

1960年代以降の高度経済成長等による急速な社会変化にともなって、新しい生活機器類（農器具・電気器具等）が導入普及され、従来の民具がそれに置き換えられる傾向が広範にみられる。それらの機器が家庭内に入ることによって、生活の中には変わった部分とそれにもかかわらず変化のない側面があるはずである。具体的に一つの機器あるいは民具を取り上げて調査・研究し、レポートすること。本文2000～3000字以内にまとめること。また大きさのわかる計測図を何点かつけること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

*課題については学習指導書『造形民俗学 平成29年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

教科書として使用する『藁の力』は、ここで対象とする造形物（民具）の研究方法を具体的に提示したものであるからそれを十分に読み込み、研究・調査、観察の手引きとすること。

成績評価の方法

科目試験は行わない。通信課題のみによって評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「デザインリサーチI・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

[備考] 芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目。
芸術文化学科文化支援コース3年次選択必修科目。

教材等

教科書：田村善次郎、佐藤健一郎『藁の力』（淡交社 1996年）

学習指導書：『造形民俗学 平成29年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）